

**平成30年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果**  
(平成31年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成30年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成31年3月

総務部長 櫻本 宏

項 目	実 施 結 果
<p><b>1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略</b> ◇進学・就職の地元志向にインセンティブ【部局連携】 ○大学生をもっと県内に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内大学との協定のもと、大学連携センターにおいて、企業の経営者等による講義や企業見学など福井県の特徴や強みを学ぶ講義を充実します。</li> <li>・県内大学が行う学生確保、地域志向人材の育成、県内就職促進等の事業への支援を拡充し、県内進学・就職増を図ります。</li> <li>・新たに保護者を対象とした企業PRバスツアーを実施し、福井で働く魅力や暮らしやすさを伝えます。また、大学連携センター内のキャリアナビセンターにおける就職相談や、社会人UIターン者など先輩社会人との交流会の開催などを通じ、県内企業への就職を促進します。 (平成29年度 46.9%)</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>県内大学生の地元就職率 55.0%</b></p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>地域志向科目について、昨年度より2科目増となる35科目を開講(履修者1,548人(昨年度比285人増))し、企業経営者から学ぶ講義や企業見学などを通して、福井の魅力や県内企業の特徴への理解を深めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営者等による講義 9科目(昨年度比:1科目増)</li> <li>・企業見学 3社 ( " 増減なし)</li> <li>・ワンポイント企業PR 12回 ( " 7回増)</li> </ul> <p>県内大学が行う県内進学・就職促進事業を20事業実施(昨年度比:3事業増)しました。県内大学の地元出身入学者数は過去最多の1,323人(昨年度比:39人増)となりました。</p> <p>新たに商工会議所と連携し、大学生の保護者を対象に、県内企業を訪問して優れた技術力や働く現場を体感するバスツアーを9回開催しました(27社訪問、参加者187人)。 キャリアナビセンターの大学生の利用者は昨年度より58人増え、のべ1,581人(うち相談のべ869人)となりました。 また、先輩社会人が福井で働く魅力を学生に伝え、県内就職のアドバイスを行う交流会を4回開催(昨年度比:3回増)しました。(参加企業は延べ129社、参加学生は延べ319人)</p> <p>学生の地元就職については、県内外ともに企業の人手不足を反映して新卒採用意欲が旺盛であり、県内大学への県外企業からの求人が高止まりしている状況です。 地元就職率を高めるには、大学入学後の早い段階から、福井の産業の強みや魅力を伝えるとともに、企業と学生の接点を強めることが重要であり、県内大学や産業界と連携しながらその充実に努めていきます。 また、県内の各大学がそれぞれのキャンパス等において行う、入学生の確保や地元就職を促進する活動を積極的に応援していきます。</p> <p style="text-align: right;"><b>県内大学生の地元就職率 50%程度(見込)</b> (平成31年3月卒)</p>

項 目	実 施 結 果
<p><b>2 福井から人材育成</b>  <b>◇地元大学の役割を拡充</b>  <b>○県立大学の充実と地元貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究の質の向上等を図るため、平成31年度（2019年度）から6年間の第3期中期目標を定め、これを受け、県立大学が新たな学部・学科の創設をふくめた大学の方向性等を具体化する中期計画を策定します。</li> <li>・オープン・ユニバーシティ構想のもと、意欲ある社会人の学び直しや生涯学習など、県立大学の研究力・教育力を活かし、県民の学びを支援します。（平成29年度 83人）</li> </ul> <p><b>聴講生および科目等履修生の数 100人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供の強化や留学支援の拡充などにより、海外留学者の増加を図ります。また、地元企業に関心の高い学生の実践型海外留学を支援するため、国の「トビタテ！留学JAPAN」制度に加え、新たにアジア人材基金を活用した制度を創設します。<b>チャレンジ施策</b>（平成29年度 76人）</li> </ul> <p><b>県立大学生の海外留学者数 130人</b>  （平成29年度 9人）</p> <p><b>「トビタテ！留学JAPAN」制度等活用留学生数 20人</b></p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>9月に県が県立大学の第3期中期目標を定め、これを受け、県立大学が新たな学部・学科の創設を含めた大学の方向性等を具体化した中期計画を策定しました。</p> <p>県立大学は、幅広い県民の教育の受け皿となるため多彩な公開講座を開催しており、今年度は福井ならではの歴史・文化・産業や地域とのつながりをテーマにした「特別企画講座」など、合計69講座開催しました。（昨年度比：10講座増）  また、29年度から受講料を従来の半額以下に軽減するなど、県民の学び直しを支援しており、広報に努めた結果、聴講生および科目等履修生は106人になりました。（昨年度比：23人増）</p> <p><b>聴講生および科目等履修生の数 106人</b></p> <p>近年の相次ぐテロ事件等の影響により、学生や保護者の留学に対する意欲が低下しており、海外留学者数が伸び悩む要因となっています。そのため、今年度、県立大学において、英語研修プログラムの留学先にテロ事件等が少ないカナダを追加し、留学情報の周知に努めました。  その結果、カナダ、オーストラリア、シンガポール等への留学が増え、全体の留学者数は131人（昨年度比：55人増）となりました。</p> <p>「トビタテ！留学JAPAN」制度の活用や、地元企業の海外拠点等への視察を含んだ留学を支援することにより、20人（昨年度比：11人増）の学生を海外に派遣しました。</p> <p><b>県立大学生の海外留学者数 131人</b></p> <p><b>「トビタテ！留学JAPAN」制度等活用留学生数 20人</b></p>

項目	実施結果
<p>3 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇「恐竜溪谷100万人構想」の実現【部局連携】</p> <p>○恐竜学研究の世界拠点へ【共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立大学の大学院生物資源学研究科に恐竜等を学ぶ「古生物学」分野を開設し、研究者等の育成を開始します。また、恐竜学研究所において、中国など国内外の研究機関等との連携による共同研究を進めます。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>大学院の生物資源学研究科に「古生物学」分野を開設し、研究設備や教員体制を充実させました。第一期生として3名の入学者を受入れ、CT スキャンを活用して化石を解析する研究等に取り組んでいます。</p> <p>さらに、県立大学恐竜学研究所が、県立恐竜博物館、中国科学院古脊椎動物・古人類研究所等との共同により、29年度から5年間にわたりゴビ砂漠において恐竜化石共同発掘調査を実施しています。今年度は8月に発掘調査を行い、小型獣脚類の歯化石などを発見しました。</p>
<p>4 幸福実感、誇りを生み出す「ふるさと政策」</p> <p>◇市町と共働の「新ふるさと」づくり</p> <p>○地方創生・人口減少対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町独自の拠点整備やブランド発信を支援する「『新ふるさと創造』推進事業」、地域とのつながり力の強化とにぎわい創出の拠点整備を支援する「福井ふるさと茶屋整備支援事業」等により、市町の地域資源を活用した地域づくりを支援します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「『新ふるさと創造』推進事業」について、今年度は、3市町（敦賀市、小浜市、おおい町）が新たに事業に着手し、現在13市町においてプロジェクトを着実に進めています。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成30年度新規プロジェクト</p> <p>敦賀市 「人道の港プロジェクト」</p> <p>小浜市 「鯖街道賑わい創出プロジェクト」</p> <p>おおい町 「若州一滴文庫若者芸術村プロジェクト」</p> </div> <p>また、新たに5カ所において地域の拠点（福井ふるさと茶屋）の整備を支援し、現在20地区において地域資源を活用した地域づくりを進めています。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成30年度新規採択</p> <p>福井市殿下地区、勝山市平泉寺地区</p> <p>坂井市丸岡地区、坂井市三国湊地区</p> <p>おおい町納田終地区</p> </div>
<p>○集落活性化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落実態調査結果について、職員が区長会等において説明を行い、集落内での危機意識の共有と住民による課題解決のための行動を促進します。</li> <li>・今年度新たに創設した「集落活性化支援事業」等を着実に推進し、市町とともに将来にわたる集落機能の維持・活性化を支援します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>集落実態調査結果について、職員が県自治会連合会および全市町区長会等において説明を行い、集落内の話し合いや活動の必要性を説明しました。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>説明会出席者 延べ1,459人</p> </div> <p>今年度、全市町が集落活性化計画を策定しました。計画に基づき市町が実施する施策を「集落活性化支援事業」により応援しています。</p>

項目	実施結果
<p><b>5 行財政構造改革</b>  <b>◇質の高い政策をめざす県政</b>  <b>○職員の学ぶ場の拡大</b>            ・職員が職種、職場を越えて、自由なテーマで大いに勉強し、議論するグループを支援し、学びの場を広げます。            （平成29年度 28グループ）</p> <p style="text-align: center;"><b>自主研究グループ 30グループ</b></p> <p>・職員が、先輩職員（メンター）から、これまでの経験や知識を学び、仕事の進め方の改善につなげます。            （平成29年度 71人）</p> <p style="text-align: center;"><b>メンターからアドバイスを 受けた職員数 90人</b></p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>若手職員の自主研究グループについては、県や市町、民間企業などを交え、昨年度を上回る 30 グループ、217 人が参加しました。            郷土資料を活用してウィキペディアで福井ゆかりの人物等の記事を充実させる活動や、全国通訳案内士資格取得に向けた勉強会など、職種や職場を越えて議論を行い、新たな視野や人脈を広げました。</p> <p style="text-align: center;"><b>自主研究グループ数 30 グループ</b>            〔参加者数 217人            グループ活動回数 185回（約6回／グループ）〕</p> <p>後輩職員が、先輩職員（メンター）から、仕事の進め方や円滑なコミュニケーションについて学ぶ交流研修会を5回開催しました。後輩職員 91 人が参加し、先輩から仕事の能力や意欲向上等の悩みについてアドバイスを受けるとともに、仕事や生活面など様々な相談ができる関係を築きました。</p> <p style="text-align: center;"><b>メンターからアドバイスを 受けた職員数 91人</b></p>
<p><b>○職員の実践的な語学力向上</b>            ・職員の英語力を高めるため、若手職員を対象に英語の「チャレンジ語学研修」を行い、海外留学派遣・駐在経験者とともに、県の情報の海外発信やインバウンド営業などに活用します。            （平成29年度 600点以上 累計213人            730点以上 累計 96人）</p> <p style="text-align: center;"><b>TOEIC600点以上 17人増 累計230人            TOEIC730点以上 4人増 累計100人</b></p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>若手職員を対象とした「チャレンジ語学研修」を実施し、ニュースのリスニングやディスカッションなどの演習を行いました。また、TOEIC 特別団体受験、TOEIC 対策学習会を実施しました。            平成 30 年 4 月の海外クルーズ客船寄港に際しては、英語力の高い職員 3 名が観光・物産の通訳ガイドを務めたほか、外国人留学生との異文化交流を行う英語カフェに職員 1 名を派遣しました。            また、インバウンド営業の即戦力となる職員を養成するため、職員による通訳案内士資格の受験を支援し、職員 1 名が合格しました。</p> <p style="text-align: center;"><b>TOEIC600 点以上 24 人増 累計 237 人            TOEIC730 点以上 9 人増 累計 105 人</b></p>
<p><b>○職員の超過勤務の縮減</b>            ・超過勤務の現状を定期的に把握し、業務の見直しや平準化を一層進め、超過勤務を縮減します。            （平成29年度 171時間）</p> <p style="text-align: center;"><b>職員 1 人あたり年間超過勤務時間 160時間            ※国体・障スポ業務を除く</b></p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>1 人あたりの超過勤務時間については、超過勤務の発生原因や全職員の超過勤務の状況を共有する企画幹会議を毎月開催し、業務分担の見直しなどにより長時間に及ぶ超過勤務の縮減に努めた結果、目標時間を達成しました。</p> <p style="text-align: center;"><b>職員 1 人あたり年間超過勤務時間 150 時間            ※国体・障スポ業務を除く</b></p>

項目	実施結果																												
<p>○会計年度任用職員制度への移行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤嘱託職員やアルバイト職員を一般職の非常勤職員である「会計年度任用職員」として任用する制度に移行するため、関係条例の改正手続等を進めます。</li> </ul>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>非常勤嘱託職員やアルバイト職員を一般職の非常勤職員である「会計年度任用職員」として任用する制度に移行するため、制度移行後の任用方法やサービス・休暇、報酬などについて近県と協議を進めています。</p> <p>今後、他県の勤務条件との均衡を図ったうえで、2020年4月からの任用開始に向け、議会に関係条例を上程します。</p>																												
<p>○県税など歳入確保と歳出合理化を進め、健全財政を堅持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内市町と協力して個人住民税の特別徴収の拡大を図るとともに、福井県地方税滞納整理機構による滞納整理を進め、県税の収入確保に努めます。 (平成29年度 98.6%)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>県税収入率(現滞計) 98.5%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行財政改革実行プランに基づく歳入の確保、歳出の合理化・重点化を進め、健全な財政運営を堅持します。</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>財政指標</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">財政調整基金等の残高</td> <td style="text-align: right;">145億円</td> </tr> <tr> <td>県債残高(臨時財政対策債を除く)</td> <td style="text-align: right;">4,800億円</td> </tr> <tr> <td>地方財政健全化法に示す健全化判断比率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  実質赤字比率</td> <td style="text-align: right;">黒字</td> </tr> <tr> <td>  連結実質赤字比率</td> <td style="text-align: right;">黒字</td> </tr> <tr> <td>  実質公債費比率</td> <td style="text-align: right;">18%未満</td> </tr> <tr> <td>  将来負担比率</td> <td style="text-align: right;">170%未満</td> </tr> </table> </div>	財政調整基金等の残高	145億円	県債残高(臨時財政対策債を除く)	4,800億円	地方財政健全化法に示す健全化判断比率		実質赤字比率	黒字	連結実質赤字比率	黒字	実質公債費比率	18%未満	将来負担比率	170%未満	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>個人住民税の特別徴収については、引き続き未実施事業所に対する働きかけを行い、対象事業所を拡大しました。</p> <p>福井県地方税滞納整理機構では、約16億5千万円の滞納案件を引き受け、公平かつ厳正な滞納整理による収入確保に努めました。</p> <p style="text-align: center;"><b>県税収入率(現滞計) 98.5%(見込)</b></p> <p>県債や財政調整基金等の残高など財政指標のすべての項目について目標を達成しました。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>財政指標</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">財政調整基金等残高</td> <td style="text-align: right;">147億円(見込)</td> </tr> <tr> <td>県債残高</td> <td style="text-align: right;">4,798億円(見込)</td> </tr> <tr> <td>地方財政健全化法に示す健全化判断比率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  実質赤字比率</td> <td style="text-align: right;">黒字</td> </tr> <tr> <td>  連結実質赤字比率</td> <td style="text-align: right;">黒字</td> </tr> <tr> <td>  実質公債費比率</td> <td style="text-align: right;">13.3%</td> </tr> <tr> <td>  将来負担比率</td> <td style="text-align: right;">169.2%</td> </tr> </table> </div>	財政調整基金等残高	147億円(見込)	県債残高	4,798億円(見込)	地方財政健全化法に示す健全化判断比率		実質赤字比率	黒字	連結実質赤字比率	黒字	実質公債費比率	13.3%	将来負担比率	169.2%
財政調整基金等の残高	145億円																												
県債残高(臨時財政対策債を除く)	4,800億円																												
地方財政健全化法に示す健全化判断比率																													
実質赤字比率	黒字																												
連結実質赤字比率	黒字																												
実質公債費比率	18%未満																												
将来負担比率	170%未満																												
財政調整基金等残高	147億円(見込)																												
県債残高	4,798億円(見込)																												
地方財政健全化法に示す健全化判断比率																													
実質赤字比率	黒字																												
連結実質赤字比率	黒字																												
実質公債費比率	13.3%																												
将来負担比率	169.2%																												
<p>○県有財産の計画的な管理【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎や学校、職員住宅など施設の種別ごとに建物数(保有量)の適正化と有効活用を図るため、これまで作成した長期保全計画(170施設)を基に、今年度は各部局が所管する職員住宅について、劣化状況等を分析し、今後の管理方針等をまとめた計画(個別施設計画)の策定に着手します。</li> <li>県有地の取得・利活用にあたっては、まちづくりや景観等への影響に配慮しながら、他部局と連携し適切に進めていきます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>各部局が所管する職員住宅について、施設の利用状況や建物性能に基づく評価を行い、劣化状況等を分析し、今後の管理方針等をまとめた計画(個別施設計画)を策定しました。</p> <p>関係部局と連携し、まちづくりや景観等に配慮しながら県有地の管理を行いました。</p>																												

項目	実施結果
<p>○越前岬保養所「水仙荘」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方職員共済組合が運営する「水仙荘」について、職員保養施設としての運営継続是非の検討を進め、今後の方針を決定します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>昭和 52 年に地方職員共済組合が越前町に開設した「水仙荘」については、施設の老朽化が進み、宿泊者数が年々減少していることから、他県の類似施設の状況も考慮し、平成 31 年 3 月末で営業を終了しました。</p> <p>営業終了後の土地・建物については、民間売却も含めて活用策を検討していきます。</p>
<p>○SNS等を活用した国内外への情報発信【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSや動画作成の専任職員が自らの体験を通して福井の魅力を分かりやすく国内外へ発信します。海外向けには、タイにおいて開催する食文化提案会・商談会や香港に新たに設置するアンテナショップの来場者に対し、SNSの登録を呼びかけ、さらなる拡散を図ります。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>観光や産業、イベント情報等について、現地での取材を基に、SNS（フェイスブック、インスタグラム）を週 3 回以上、動画（ユー・チューブ）を月 1 回発信しました。</p> <p>県外向けの「おいでよ！ふくい」は、体当たり取材による手作りの動画制作が高く評価され、「地方公務員アワード 2018」、「ぐろ〜かるCM大賞 2018 特別賞」を受賞しました。</p> <p>海外向けの「experience fukui」については、関係各課と連携し、香港国際旅行展示会（6 月 14～17 日）や香港アンテナショップ（10 月 5 日～12 月 26 日）、タイ食文化提案会・商談会（11 月 12～15 日）等において、拡散に向けたPRを行いました。</p> <p>これらの結果、県外向け、海外向けを合わせた月平均閲覧数は対前年度で約 6 割増加するなど拡散につながりました。</p>
<p>◇県民に「よくわかる県政」の実現</p> <p>○広報・広聴の密度を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県政の動きを即時に伝えるフェイスブック「ほやほや！ふくい」登録者の一層の拡大を図り、より多くの県民に広報します。 (平成29年度 累計 2,662件)</li> </ul> <p style="text-align: center;">「ほやほや！ふくい」登録件数 338件増 累計 3,000件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や職場等に職員が出向き、県民の方々に県施策を直接説明する「よくわかる県政出前トーク」を開催し、施策への理解を深めます。 (平成29年度 累計 915件)</li> </ul> <p style="text-align: center;">「よくわかる県政出前トーク」開催件数 380件増 累計 1,295件</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県政トピックスや県関連イベント、食などに関する情報をほぼ毎日発信し、きめ細かな県政情報の提供に努めました。</p> <p>特に今年度は、「福井しあわせ元気」国体・障スポについて、炬火集火式や障スポプレ大会等の開催前イベントから両大会の開・閉会式、天皇杯・皇后杯の一般展示までタイムリーに広報しました。また、「幕末明治福井 150 年博」についても約 8 か月の間、県内各地で開催された関連イベントを切れ目なく広報しました。</p> <p style="text-align: center;">「ほやほや！ふくい」登録件数 349件増 累計 3,011件</p> <p>県内各地の公民館や学校などに職員が出向いて、重要施策等の説明を行い、県政への理解促進に努めました。</p> <p style="text-align: center;">「よくわかる県政出前トーク」開催件数 445件増 累計 1,360件</p>

項目	実施結果
<p>◇行財政構造改革の継続実行</p> <p>○「第五次行財政改革実行プラン」の策定</p> <p>・継続して行財政改革を推進するため、第四次行財政改革実行プランに続く、平成31年度（2019年度）からの4年間を計画期間とする次期プランの策定に着手します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>職員確保と人材育成の充実、国体・障スポ後の組織再編、A I 等を活用した仕事の進め方改革、健全財政の堅持を主な項目として、民間の有識者から成る行財政改革推進懇談会を3回開催し、2022年度までを期間とする第五次行財政改革実行プランの検討を進めました。</p> <p>今後は、懇談会での意見を参考に、プランに盛り込む具体的な内容を検討し、平成31年度の本格的な予算となる6月補正予算の編成と併行して策定を進めていきます。</p>

**【実施結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)